

## 新年のご挨拶

日本銀行甲府支店  
支店長 水野 裕央



新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により、経済・社会は大きな打撃を受けました。多くの尊い命が失われたほか、観光・飲食業などの対面型サービス業を中心に、厳しい状況を強いられました。

この間、感染症の最前線に対応された医療機関・保健所、企業の資金繰りを支援された金融機関、行政など、経済・社会を支えた方への敬意と感謝が絶えない1年でもありました。

今年も、しばらくは辛抱の時期が続くと思われます。しかしながら、英国でワクチンの接種が開始されたという明るいニュースもあり、先行き、感染症の影響が徐々に和らいでいくもとので、緩和的な金融環境や政府の経済対策の効果にも支えられて、緩やかな改善基調を辿るとみられます。また、当地では、武田信玄公生誕500年の記念の年で、地域の活性化が期待されるほか、中部横断自動車道の下部温泉早川ICと南部IC間の開通により、山梨・静岡の連携・交流が一層高まることと思います。

長い目では、地域経済を取り巻く環境は、SDGsに対する社会的要請の高まり、デジタル・トランスフォーメーションや働き方改革の加速などにより、大きく変化しつつあり、これらへの対応も重要です。

当地では、脱炭素については、昨年、県が国を代表する水素・燃料電池の研究・評価機関の誘致に成功し、同分野の研究機関の集積地としての準備が進められています。デジタル化も、感染防止対策として、オンライン会議、インターネット販売、キャッシュレス決済などの動きが見られ、生産性向上も強く意識されています。働き方改革についても、県が2拠点居住、移住の支援を強化する中、首都圏に近く、交通の利便性が高い立地上の利点から、自然豊かな場所でのワーケーションなどの動きも見られ始めています。これらの変化には、成長の可能性が秘められています。

最後に、新技術の発明、ヒット商品の開発、新規事業への転換などの成功の裏には、難しい課題を乗り越えた人々の知恵、挑戦、不断の努力があります。感染症の影響を受けた厳しい今だからこそ、課題克服の先には飛躍があると信じます。

皆様にとって、2021年が飛躍の年になることを祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。